

一般会計予算決算常任委員会
産業建設分科会記録

令和2年4月24日

【開催日】 令和2年4月24日

【開催場所】 第2委員会室

【開会・散会時間】 午前11時9分～午前11時25分

【出席委員】

分科会長	中村博行	副分科会長	藤岡修美
委員	岡山明	委員	高松秀樹
委員	恒松恵子	委員	森山喜久
委員	宮本政志		

【欠席委員】

なし

【委員外出席議員等】

副議長	矢田松夫
-----	------

【執行部出席者】

副市長	古川博三	経済部長	河口修司
経済部次長兼農 林水産課長	川崎信宏	農林水産課技監	山崎誠司
農林水産課耕地 係長	本多享平		

【事務局出席者】

局長	尾山邦彦	書記	光永直樹
----	------	----	------

【審査事項】

- 1 令和2年度山陽小野田市一般会計補正予算（第3回）に関する専決処分について

午前11時9分 開会

中村博行分科会長 それでは一般会計予算決算常任委員会産業建設分科会を開

催いたします。審査番号1、承認第2号令和2年度山陽小野田市一般会計補正予算（第3回）に関する専決処分について説明を求めます。

川崎経済部次長兼農林水産課長 それでは、承認第2号令和2年度山陽小野田市一般会計補正予算（第3回）に関する専決処分について説明をいたします。概要につきましては、湿田対策として設置した排水ポンプが破損したことで、田がぬかるんで機械が入らず、営農活動に影響が生じ、修繕するために早急な予算措置が必要となりました。このことから専決処分をいたしましたので、これを報告し承認を得るものでございます。資料の1ページを御覧ください。まず、施設の内容ですが、名称は津布田一丁田かんがい排水施設でございます。詳細につきましては記載のとおりでございます。資料の3ページをお開きください。設置場所は津布田小学校から500メートル東側で位置図の中ほどに丸で囲んでおります箇所でございます。また、資料の1ページを再度御覧ください。次に施設の設置経緯についてですが、当該施設は石炭採掘を終了した昭和46年ころから、炭坑坑内の湧き水、いわゆる古洞水の上昇により下流農地の湿田被害を解消するため、平成7年3月に設置された施設であります。なお、平成11年3月に新エネルギー、産業技術総合開発機構公害本部九州事業部から交付された5,913万2,000円を原資に基金条例を制定いたしました。平成30年度末時点の基金残高は5,683万8,000円でございます。次に専決処分に至った経緯についてですが、今月6日に地元から近隣農地に地下水があふれているためとの連絡があり、現地を確認したところ、排水ポンプが破損し稼働していない状況が確認されました。このため下流農地の地下水位が上昇し、営農活動に影響が生じることとなり早急な当該施設の修繕が必要な状態であったことから、同日付けで所要の予算措置について、専決処分を行ったところでございます。それでは歳入歳出補正予算事項別明細書におきまして説明いたします。補正予算書5ページ、6ページを御覧ください。下段の歳出6款1項4目農地総務費の11節需用費、細節、修繕料95万8,000円を増額し、上段の歳入にあります9款1項5目津布田一丁田地区かんが

い排水施設維持管理運営基金繰入金を全額の95万8000円に充当いたしました。以上、御承認いただきますようよろしくお願いをいたします。

中村博行分科会長 説明が終わりましたので、質疑を求めます。

森山喜久委員 ポンプの破損ということなんですけど、ポンプ2台ともが破損したという状況なんですか。それともそれ以外の機械が壊れたという状況なんですか。

山崎農林水産課技監 破損の内容なんですけども、今言われましたとおり、ポンプが2台とも動かない状態で、老朽化による破損ということになっておりました。

森山喜久委員 2台を今回修繕というふうな形の状況になるかと思いますが、例えばもう25年たっている状況にもなるんですが、ポンプを新たに入れ替えるというふうな形でなくてあくまで修繕という形で今回は対応していくということによろしいですか。

山崎農林水産課技監 修繕の内容なんですが、ポンプ2台の更新ということで直しました。

森山喜久委員 今年度の営農に十分対応できるということで、修理が終わったということによろしいでしょうか。

山崎農林水産課技監 そのとおりでございます。

高松秀樹委員 このポンプの耐用年数は大体何年ぐらいなんですか。

本多農林水産課耕地係長 ポンプの耐用年数なんですが、10年から15年と

なっております。しかしながら、メーカーの設定が1日当たり12時間というふうになっております。地下水とか雨の量によって、ポンプの回転する時間が違いますので正式に何年という形では言えないです。

高松秀樹委員 このようなポンプで排水をしているところってほかにはあるんですか。

山崎農林水産課技監 ほかのところということなんですけども、なかなか水位が上がって、例えば公害とかで水位が上がってというところは余りないかと思えます。公害で逆に水が抜けるだとかっていうところはありますけれども、逆に水が上昇というところについては今のところここだけかとは思えます。

高松秀樹委員 ほかのところでポンプの耐用年数が過ぎておるところがあるのかなのか。あるのであれば同じような症状が出ると思うんですけど、その辺を調査されているのかっていうのを知りたいんですけど。

本多農林水産課耕地係長 先ほどの御質問なんですけど、こういったポンプ施設は一丁田のみになっております。こういう事例がありましたので、今後、保守点検のほうを実施していきたいと思っております。

藤岡修美副分科会長 炭鉱公害の古洞水というのは鉄分が多くて、ほっとけばコンクリートの水路とかが真っ赤になるイメージがあるんですけども、その辺の影響ってというのはこのポンプにもあったんですか。

山崎農林水産課技監 鉄分が確かに成分として多かったということで、そのまま水位が上昇ということになれば影響っていうのがあると思いますが、配管だとかそういうところについて影響は、現在のところはないかというところでございます。

岡山明委員 公害関係のポンプはないと、そういう状況で今回、更新されたということで、2台あるということは片方は停止で水位の変化で自動起動という形で、通常ずっと回っているという意識を私は持ってないんですけど、2台あれば予備として、今言った自動起動という形で動いていると。それが今回2台壊れたという状況で同じ時期に更新されているという状況はいかなものかという疑問を持ったんです。2台とも更新する時期が一緒では管理上非常にまずいと。ポンプ自体の容量とかを考えられて更新しているんですか。そうするとまた二十何年後に同じように2台が一遍にこうやって壊れてしまうという可能性が出てくると思う。その辺を考慮されているか聞きたいんですけど。

山崎農林水産課技監 おっしゃられるとおり2台体制ということで1台は運転して、もう1台は休んだりっていうところがあるかと思うんですけども、今回2台とも老朽化のために動かないっていう状況がありましたので、その辺については維持管理上2台ともということは、あまり多くはないとは思いますが、老朽化が進んでいるということで2台とも直させていただいてその中で、交代運転だとかというところをやっていきたいと思います。今後については、維持管理等含めてその辺は1台なり運転しているところもありますので、交互にやっていききたいとは思っています。

本多農林水産課耕地係長 ちょっと補足としてなんですが、まず2台ポンプがあります。このポンプの仕組みといたしまして、1号機と2号機があります。1号ポンプが動いて停止した場合、次は2号ポンプが動くような設定になっています。いわゆる交互リレーといたしまして1号機が動いた後に2号機が動く、2号機が停止したら次1号機が動くということで設定しておりますので、どうしても同時期に壊れるっていうような形になっております。平均的にポンプを動かすためにこういう設定にしているというふうにお伺いしております。

岡山明委員 そういうシステムは理解できるんですけど、そういう補修の部分

は今後されるという状況で、今までに故障とかはなかったんですか。平成6年からですから25年、26年ぐらいたつとるんですけど、そういう状況の中で一度も補修工事はなかった。そういう意味で、二十何年間、全然知らなかったという状況で今後、そういう2台の不具合があるから、点検を強化をするという話なんですけど、今までは故障がなかったということですか。

川崎経済部次長兼農林水産課長 公害の関係で設置されたものを山陽町時代に町に移管したってところがずっと設置されてからの経緯、管理の形なんですけども、記録によると小規模な修繕は見受けられるんですけど、大規模な修繕は特に今までなかったのかなというふうには思っております。過去の記録からです。

中村博行分科会長 定期的な点検っていうのは余りされてなかったっていう理解でいいですか。

川崎経済部次長兼農林水産課長 点検も維持管理費といっても電気代を出すっていうぐらいのことで、特別な点検はされてないということなんです。パトランプがあって異常があったときはパトランプが回るようになってるんです。水位が上がったときとかですね。パトランプが回って、こちらが確認に行くとか、動いているとか、故障があったときに簡単な修繕をするというようなことがあったんですけど、来年度以降はこの基金からどこまでメンテができるか分からないんですけど、その辺を予算化して、長寿命化を図っていきたいなというふうに思っております。

中村博行分科会長 基金について聞いてみたいんですけど、当初5,900万円、原資としてということがあって、5,600万円、一般会計から30万円ぐらい毎年繰り入れていたと思うんですけど、この間300万円繰り入れていても二百何十万円減っているけども、それは何かそれまでの手当てで使われたということですか。

川崎経済部次長兼農林水産課長 先ほどの維持管理費で主には電気代で支出しております。

岡山明委員 公害の関係の予算はこのポンプにしか使われてないという状況ですか。それ以外にそういうこの基金が使われたっていうのがありますか。

川崎経済部次長兼農林水産課長 津布田一丁田地区かんがい排水施設維持管理運営基金については津布田一丁田のこの施設を維持管理するための基金ですから、これだけに使われております。

岡山明委員 かんがい排水以外にこの基金が使われていないということですか。

川崎経済部次長兼農林水産課長 この排水施設のみに使っておる基金でございます。だからほかの施設には使っておりません。

中村博行分科会長 よろしいでしょうか。それでは質疑を打ち切ります。それでは以上で産業建設分科会を終わります。お疲れ様でした。

午前 11 時 25 分 散会

令和 2 年 4 月 24 日

一般会計予算決算常任委員会産業建設分科会長 中 村 博 行